

炊き出し訓練が行われました



自衛隊員がカレーライス(300食)を作り、日赤奉仕団のみなさんが防災訓練の参加者などへ配給しました。



自主的に炊き出し訓練を行った緑町第1町内会のみなさん。おにぎり20人分と豚汁を作りました。



防災訓練の様子



羽幌町地震・津波防災訓練を実施しました

北海道北西沖で地震による津波が発生した場合を想定して、内閣府(国)と北海道、羽幌町が共催し、地域住民が参加する津波避難訓練をはじめとした防災訓練を実施しました。

雪がチラチラ降る、寒い日となった11月5日、午前9時にサイレン吹鳴のあと、離島を含めシェイクアウト訓練(地震の際の安全確保行動)「まず低く、頭を守り、動かない」を行いました。続いて、津波浸水予測地域の町民は津波避難訓練へと移り、並行して、メイン会場となった中央公民館では、情報伝達訓練も実施しました。

9時5分、大津波警報発表により、町から広報車で対象地域へ避難指示を発令し避難を呼びかけ、今回の訓練では、指定緊急避難場所の中央公民館、総合体育館、築港集会所、羽幌中学校、川北青少年育成センターへ避難を実施しました。町民のみなさんは徒歩などで避難行動をとり、各指定緊急避難場所へは計137名



が集まりました。避難完了後、中央公民館において、全町民を対象とした防災に関する研修および体験訓練が実施され、大ホールでは防災に関する講話として、旭川地方気象台から「地震・津波に備える」地震と津波から身を守る」株式会社総合防災ソリューションから「避難所の開設・運営に係わる課題と対応」についてお話しを聞きました。また、ロビーでは防災資機材の展示も行われ、参加者の関心を引いていました。子ども向けには映像を使った防災教室も開かれ、子どもたちは話に聞き入っていました。

中央公民館の外では、自衛隊の特殊車両、パトカー、白バイ、消防車、救急車などが展示され、普段あまり見ることができない特殊車両に、説明を聞きながら真剣に見入る子どもたちや町民のみなさんが後をたちま

せんでした。

炊き出し訓練も行われ、自衛隊員の調理で用意された300食分のカレーライスを、日赤奉仕団から参加者などへ配りました。また、緑町第1町内会のみなさんは、自主的に炊き出し訓練を行い、おにぎり20人分と豚汁を作りました。

訓練の最後に駒井町長は「災害はいつ起こるかかわからないことを改めて認識し、実際に災害が起こったときは、本日の訓練を通して得た経験が生かされるものと考えております。」と結びました。

今回の訓練は関係機関の連携強化、地域住民の防災力の向上を推進し、津波災害時における人的被害の軽減を図ることを目的に実施しました。

参加者のみなさんも、自宅から避難場所までの移動に掛かる時間や避難場所への持ち物など、実際に訓練に参加することで改めて確認することが多かったのではないのでしょうか。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。自らの安全は自ら守ることが防災の基本です。もしもの時の備えは万全ですか?災害時に慌てず行動するために、日頃から家族で、職場で、地域で話し合っ

